

各位



2023年5月12日

会社名：スターティアホールディングス株式会社

代表者名：代表取締役社長 兼 最高経営責任者 本郷 秀之

(コード番号 3393 東証プライム)

問合せ先：取締役 植松 崇夫

(TEL：03-5339-2109)

特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせ

当社は、2023年3月期第4四半期連結会計期間（2023年1月1日～2023年3月31日）において、下記のとおり特別損失（減損損失）を計上しましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の発生およびその内容

2023年3月期第4四半期連結会計期間において、デジタルマーケティング関連事業（以下、「同事業」といいます。）におけるソフトウェアの一部について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく回収可能性を検討した結果、減損の兆候が認められたため、減損損失として350百万円を計上することといたしました。

同事業においては、2021年3月期以降、従来のフローモデル（売切り型）に代わり、顧客から一度に得られる収益は少額でもそれがストックとして継続的に積み上がっていくサブスクリプションモデル（継続課金型）にビジネスモデルを転換、経営資源を集中し、開発体制の強化とマーケティング活動への投資を行ってきたことで、着実に売上高を積み上げてまいりました。一方、2023年3月期において、従来のセールス中心の販売組織に加え、PLG戦略（「Product Led Growth：プロダクトレッドグロース」の略語で、SaaSプロダクトそのものに営業やマーケティングの機能を付け、成長を目指す考え方です。）として組織を立ち上げましたが、PLG組織にSLG組織の既存メンバーを異動したことで、SLG組織は新人比率が増加しており、この新人の教育に時間を要しつつ、PLG戦略の立ち上げにも時間を要したこと、更にSaaSツールの月次売上高は純増するも、ツールのオプション解約によりサブスクリプションモデルの売上高が鈍化したことにより、当初計画に対して遅れる結果となりました。

これらの状況を踏まえ、次期2024年3月期以降の同事業においては、引き続きサブスクリプションモデルを中心に事業展開を進め、2024年3月期のセグメント利益の黒字化を達成し、収益性向上を目指してまいります。

2. 当期業績に与える影響

上記の特別損失（減損損失）につきましては、本日公表いたしました「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

以上